

～ 名古屋大学 緊急地震速報システム ～

一 対応一瞬
ケガ一生一 緊急地震速報が鳴った！
10秒間で何を？

名古屋大学緊急地震速報システム

学内防災無線スピーカーによりお知らせします！

災害対策室
施設管理部

【システムの概要】

東山キャンパスで震度5弱以上が予測されるときに、地震による強い揺れが起こる数秒前に警報を発します。防災無線により東山キャンパス、鶴舞キャンパス、大幸キャンパスにも通報されます。将来的には館内放送にも順次接続する予定です。

【放送メッセージ】

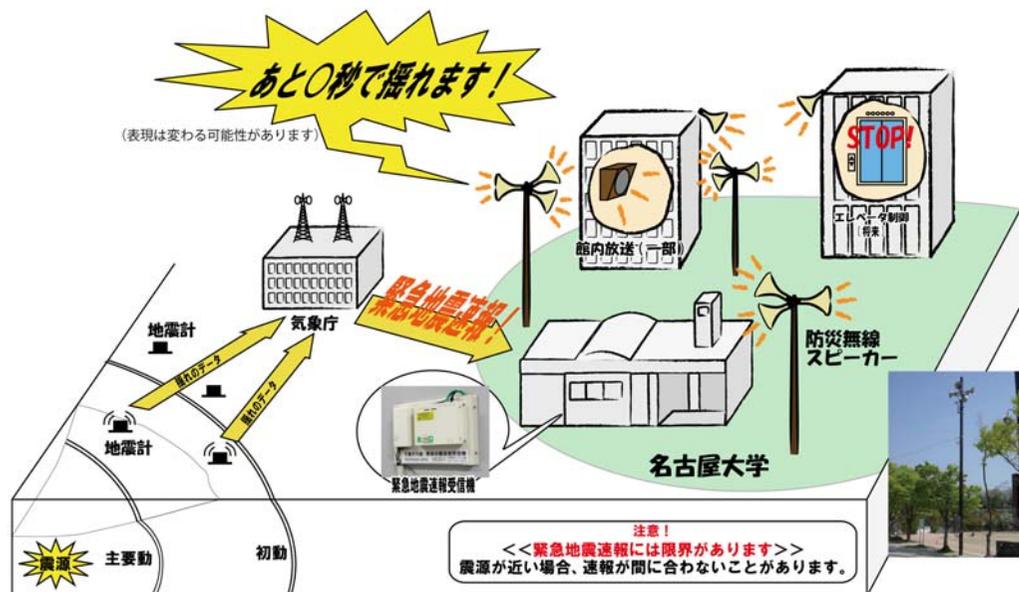
NHKチャイム音につづき、「身の安全を確保してください」というメッセージが流れます。

【放送を聞いたら】

強い揺れが起きるまでの時間は限られています。倒壊や破損しやすいものから離れるなど、身の安全を図るための最低限の行動を取ってください。

【稼働時間】

周辺地域への迷惑にならないよう、稼働時間は当面、午前6時～午後9時とします。



あなたの部屋は？

室

10秒ですること

*裏面の資料を参考に、危険なものは何か、ゆれる直前に何をすれば良いか、できる限り具体的に記述してください

緊急地震速報が鳴った！

そのときどうする？

参考資料編



基本対応

1. 火を消す
2. 安全姿勢
3. 出入り口の確保

学内対応 一例

実験室

致死率No.1

- ① ガスバーナー、アルコールランプなどの火を消す
- ② 薬品は蓋を閉めて薬品庫に入れ、その扉を閉じる
- ③ 大型機械は実験マニュアルの手順に従って停止
- ④ 落下物・破損物のない場所で安全姿勢
- ⑤ 万一火災が発生したら初期消火
(初期消火：火が天井に燃え移るまでの消火)

ガスバーナー等の火を学生が消すのは危ない、という意見もありますが、限られた時間内で火気を止める必要があります。今では小学生でも地震時には自分で火を消すよう指導されています。いざというときに即行動できるよう、日頃から実験設備の取扱いを勉強・練習しておいてください。

講義室

混乱しやすい

- 机・イスが床に固定されている部屋
- ① イスに座ったまま机につかまる
- 机・イスが床に固定されていない部屋
- ① とにかく頭を守る

地震時は物が落ちたり、倒れてくるだけではなく、机もイスも自分も揺れています。壁や天井パネルの剥離・落下、ガラスの破損も考慮して、身を守る方法を考えておく必要があります。

研究室 事務室

危険物いっぱい

- ① 危険なものが周りにないか確かめる
(未固定のPC・大型家具や機器・われもの・その他落下物や移動すると危ないもの)
- ② イスから降りて安全姿勢

研究室には沢山の本、PC、その他の電化製品に大型家具のような危険物があるだけではなく、机やイスも大きく、床に固定されていないものが多いです。さらに、家具が倒れる、本などが大量に落ちることで出入り口をふさがれることもあります。日頃から、特に大きな家具等の固定を行うことは極めて重要です。

階段

致傷率No.1

- ① 階段の途中なら踊り場へ出て安全姿勢
(手すりをつかんで揺れを耐えるのは危険)
- ② 階段付近では踊り場の壁際が最も安全である
(手すりの隙間から物が落ちてくる可能性あり)

階段は足場が悪く、危険な場所です。また細い手すりにつかまって揺れを耐えるのは、柵の間から転落しやすいだけでなく、自分が揺れることにより柵に頭をぶつけて怪我をしやすいです。階段で緊急地震速報が聞こえたら、エレベーターホールや踊り場などで安全姿勢をとってください。

屋外

頭上からの危険物に注意

- ① 建物から離れたオープンスペースで安全姿勢
- ② (建物から離れられないとき) 建物の中に入る

地震によるガラスの飛散は、建物の高さの半分の距離程度、と言われていています。普段歩いている学内の道を意識して、いざというときにどこに逃げれば良いか、どのように行動すれば安全か、一度考えてみてください。

運動場 体育館

サッカーゴール
卓球台などは危険

- ① 学生は(基本的に)真ん中に集まって座る
- ② 教員は危険物(道具)の位置を常に確かめ安全な場所に学生を集める

運動場や体育館は避難場所のイメージが強く、安全と思われがちです。しかし、運動に必要な道具が出ているような状況においては、決して安全とは言えません。道具類から離れて、周辺から飛んでくるもの、倒れてくるものが無い場所で安全姿勢を取るようになってください。

※ これらは「一例」に過ぎません。表紙には、状況に応じた対応策を関係者で相談し盛り込んでください。